

新潟県立歴史博物館評価委員会

平成 26 年度 館の自己点検に対する 二次点検評価報告書

平成 27 年 8 月

活動評価表（総括）

博物館の基本理念

- 県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像※を県民とともに創造していきます。
- 人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して

『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

I 博物館による自己点検と評価

○ [評価指標] 利用者数 (単位：人)

	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度
	実績	目標	実績	目標
① 利用者総数	(単年) 83,915 (前計画期間平均) 123,348	増加 させる	103,990	増加 させる
② 観覧者数	(単年) 47,791 (前計画期間平均) 63,862		62,737	

○ [評価指標] 満足度 (単位：%)

	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度
	実績	目標	実績	目標
① 来館者満足度	97%	維持・向上 させる	94%	維持・向上 させる
② 企画展	93%		87%	
③ 講座等 講座・講演会 体験コーナー	91% 90%		89% 99%	
④ 来館者対応	98%		100%	

取組実績

○取組実績

- (1) 収集保管 収蔵資料データ整理の進展（民俗資料約 900 点、考古資料約 8500 点）、収蔵庫保存環境のチェック体制（継続/新規）
- (2) 展示 [常設展] 展示環境の維持
[企画展] 有料展覧会 4 回実施（「親鸞」、「浮世絵」、「人類学」、「遺跡」）
[その他] 移動展覧会「復興祈念展」
- (3) 調査研究 外部研究費 3 件（他に共同研究者、研究協力者としての取得 4 件）
- (4) 教育普及 館内講座・出前講座の継続、体験活動・体験コーナーのプログラム充実、教育機関への周知活動拡充（新規取組：保育・幼稚園や特別支援学校への紹介、近隣市町教育委員会への直接訪問等）
- (5) 連携 展示協力（早津剛展等）、地域史研究ネットワーク取組充実（新規研修の実施）、友の会との連携拡充
- (6) 情報発信 ホームページの内容充実、SNS による情報発信
- (7) 管理運営 博物館運営方針（H24～28）及び新評価システムに基づく PDCA

分析	<p>(1)利用者総数・観覧者数(①、②)とも増加し、利用者数の評価指標は昨年度を上回った。</p> <p>★観覧者数 常設展 H25 : 14,885 人→H26 : 18,607 人 (3,722 人増) 企画展 H25 : 32,906 人→H26 : 44,130 人 (11,224 人増) (企画展別の昨年度比較 春↑、夏↑、秋↑、冬↓)</p> <p>増加の理由は、特に親鸞展の開催が大きい。</p> <p>★館外利用者 H25 : 1,445 人→H26 : 2,091 人 (646 人増)</p> <p>(2)満足度の評価指標は昨年度と比較して項目により上下がある。おおむね高水準は維持できているが、企画展の満足度の低下(春・秋・冬展が9割を切っている)は留意を払うべきものである。</p> <p>(3)取組実績のうち、収蔵資料データ整理の着実な進捗、企画展での他団体との連携などが、一定の成果・実績として挙げられる。</p>
課題	<p>(1) 企画展の展示方法・テーマ設定の工夫</p> <p>(2) 具体的な集客に向けた広報等への一層の取組</p> <p>(3) 調査研究活動の充実と県民還元</p> <p>(4) 支援団体・協力者との一層の連携強化</p>

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい予算状況の中で、各種数値目標に近いかそれ以上の数値を達成している。活動が着実に県民に浸透しつつある結果と思われる。 ・取り組んでいる項目も、博物館の各種機能をより有機的に結合させて事業展開しようとしている努力を評価する。 ・満足度が目標値をわずかではあるが下回っているものもあるので、利用者の要望を的確に把握し、館の運営に反映させて欲しい。 ・市町村の博物館・資料館も予算面、人的面でかなり厳しく、資料等の取り扱い・保存などの技術習得が単独では困難な状況にあると聞く。県立博物館は歴史系博物館のセンター的役割も担っていることから、市町村博物館等への指導助言をより積極的に進めて欲しい。 ・今後は、上記の課題として取りあげられている項目について一層の充実をはかるよう取り組んでいただきたい。 ・県の重点事項でもある地域創生・人口減の対策の根幹は、地域の歴史を知り、県民一人一人が郷土への愛着を抱くことにある。その中核となる博物館の充実につながるよう努力していただきたい。また常設展示の更新も望まれる。

活動評価表

機能・取組分野	収集・保管	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 ・ 良好な資料保存環境を維持する。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 ・ I P M（総合的有害生物管理）による環境管理を継続する。 	

I 博物館による自己点検と評価				
取組実績	○ [評価指標] 収蔵資料目録の刊行準備			
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 28 年度
		実績	目標	実績
		1 目録	1	0
			目標	1 目録
	○ [評価指標] データベース基礎資料作成			
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 28 年度
		実績	目標	実績
		継続 (1,722)	継続	継続 (900 点)
		目標	継続	継続
	収集 (1) 資料寄贈 8 件 (2) 収蔵資料破損 なし (3) 収蔵資料目録刊行 準備は進めているが、刊行はなし (4) データベース化のための整理作業 民俗資料約 900 点、考古資料約 8500 点 (5) 収蔵品検索システムの更新 年度内導入で作業中 保管 (1) 文化財害虫モニタリング測定 月 1 回 (2) 殺・防虫消毒 展示室殺虫消毒 1 回 館内殺虫消毒 1 回 館内防虫施工 2 回 館外防虫施工 3 回 燻蒸室内燻蒸 2 回 (3) 収蔵庫温湿度管理 通年 (4) 空気環境管理 酸・アルカリ濃度測定 4 回 (収蔵庫、企画展示室) 新規 カビ等浮遊菌調査・イオンクロマトグラフ空気中物質測定 (5) 収蔵庫定期清掃及び資料点検 1 回 (6) 収蔵庫定期点検 月 1 回 (7) IPM 研修 2 回 (8) 保管環境研修会参加 文化財虫菌害・保存対策研修会、文化財保存・環境 研究会、文化財虫菌害防除作業主任者講習会			
分 析	(1) 目録準備作業は継続しているが、目録刊行予算は獲得できなかった。 (2) データベース化は管理システムの移行作業中であるため、入力は今年度より行う。 (3) 25 年度後期から実施している異常発生対応マニュアルに基づく「異常発生記録簿」・「定期点検簿」への記載、月 1 回の定期検査 (目視確認) は定着している。 (4) 保管環境は IPM、殺・防虫消毒、温湿度管理、空気環境管理、清掃、定期点検をとおして良好に維持されている。			

	(5) 全国規模の保管環境研修への館員参加によって、職員個々の技術も向上している。
課題	(1) データベース作成に係る整理作業員の確保が必要である。

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館にとっての基幹的機能とも言える収蔵品検索システムの更新が実現し、データベース化の準備が進んでいることは評価できる。入力作業を積極的に進め、早期の本格稼働を目指してほしい。 ・ 目録の刊行はできなかった。今後データベースが活用できれば、刊行作業の省力化も可能なはず。分野別だけでなく、館の「選りすぐり所蔵品」目録などもあれば広報にも役立つのではないかと。予算獲得に努めてほしい。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	展示－常設展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 ・常設展示の十分な活用を推し進める。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 ・より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。 	

I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 新規展示・交換展示資料												
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>73 点</td> <td>80 点</td> <td>71 点</td> <td>80 点</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	73 点	80 点	71 点	80 点
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度									
	実績	目標	実績	目標									
	73 点	80 点	71 点	80 点									
○ [評価指標] ワンポイント解説													
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>423 人</td> <td>480</td> <td>499</td> <td>500 人</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	423 人	480	499	500 人	
平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度										
実績	目標	実績	目標										
423 人	480	499	500 人										
	<p>(1) 定期資料展示替え 4 月（新潟県のあゆみ・雪とくらし・米づくり）、10 月（新潟県のあゆみ・米づくり・縄文文化を探る）</p> <p>(2) 常設展定期点検 隔週（照明・電気の点検、ケース内及びびガラス清掃）</p> <p>(3) 常設展の保守点検・補修 2 回（展示品・機器の総合点検）</p> <p>(4) 新規 短期収蔵品展示 親鸞関係史料展示（春）、勝海舟関連資料特別公開（秋）</p>												
分析	<p>(1) 展示資料点数は例年並みである。</p> <p>(2) 常設展示室にて企画展関連所蔵品展示と新収蔵品展示を行った。</p> <p>(3) 展示替え対象資料については展示期間をそれぞれ明示することとした。</p> <p>(4) 設備・機器・資料等は定期点検や保守点検で維持され、良好な見学環境を保っている。</p> <p>(5) ワンポイント解説利用者は目標に達した。</p>												
課題	<p>(1) 音声解説器・映像情報コーナー機器など部品調達の困難な展示機器の更新を数年内に行う必要がある。</p>												

II 評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・展示品の定期交換を行なったりと工夫が見られる。併せて、解説文などを工夫し新たな視点の導入するような試みも期待される。 ・一方、常設展示は大型の設置物が多く開館以来更新がなされていない。来館者が「いつもと同じ展示」という印象を与えリピーターになり得ず、入館者の減少につながっていると推測される。より多くの来館者に新潟の風土を知ってもらう為に、常設展示の大規模更新が期待される。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	展示－企画展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 ・ 集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年4回程度の企画展の実施を目標とする。 ・ 入場者の満足度を高める 	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ [評価指標] 企画展回数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>4 回</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4 回</td> </tr> </table>			平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	4 回	4	4	4 回
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	4 回	4	4	4 回												
	○ [評価指標] 満足度	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>93%</td> <td>90%</td> <td>87%</td> <td>90%</td> </tr> </table>			平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	93%	90%	87%	90%
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	93%	90%	87%	90%												
	(1) 企画展	春「親鸞となむの大地」、夏「黄金期の浮世絵」、秋「日本人類学の黎明」、冬「遺跡が語る新潟県の歴史」														
	(2) 関連講演・講座	講演会毎回開催、見どころ解説実施（夏季企画展）														
(3) 関連イベント等	春「国際博物館の日記念 招待券プレゼント」（30名抽選） 夏「江戸時代で遊ぼう（体験コーナー）」 秋「まが玉づくり（体験コーナー）」 冬「縄文文様コロコロ体験（体験コーナー）」															
(4) クイズラリー	夏季企画展で実施															
(5) その他	「マイコレクション展」、「子ども縄文展」を開催															
分 析	<p>(1) 新潟をテーマとした地域の文化や歴史を掘り起こす展覧会が主体となった。</p> <p>(2) 講演会・関連イベントなどは、おおむね好評であった。</p> <p>(3) 春季展は親鸞学会・新潟日報社と実行委員会を組織して開催した。記者発表や前年度からの予告、親鸞学会を通じた寺院への働きかけにより多くの団体客の見学があったこともあり、天地人展につぐ過去第3位の入場者数をえた。開会日に博物館到着となる京都発のウォークツアーなどの関連イベントも開催された。</p> <p>夏季展は巡回展であるが、県内の博物館及び日本アニメマンガ専門学校（JAM）とのコラボレーションにより、オリジナルコーナーを膨らませ、独自の展開を図った。特にJAMのコーナーは江戸時代と現代のポップカルチャーを比較してみることのできるものとなり、それも老若男女問わず好評であった。また、友の会の協力を得て音声ガイドを導入する事ができ、好評であった。</p> <p>秋季展は地元長岡出身の日本初の形質人類学者についての研究成果にもとづいた展覧会で、近代の個人を取り上げた初めてのケースであった。戊辰戦争、お雇い外国人、著名な文学者などが登場することから様々な層へ</p>															

	<p>のアピールをはかったが、来館者は見込みを大きく下回る結果となった。アンケートには過去最高の展覧会という評価があった一方で、少数ながら全く意義を認めないとする評価があった。</p> <p>冬季展は、県教育委員会が行ってきた越後国域確定 1300 年記念事業の一環であり、旧石器時代～古代にいたる県域の歴史を出土物からたどる展覧会で、文化庁補助事業のため無料となった。講演会、展示解説とも多くの参加者を得た。</p> <p>(4) 4 回の展覧会を通じて、いずれも県内の諸団体との連携が図られ、また研究員の研究成果も還元された（春季・秋季展）。</p>
課 題	<p>(1) 自主企画展では展示構成、出品交渉、パネル作成、図録作成に労力がそがれ、展示を見せる工夫に時間を割くことが難しい現状にある。</p> <p>(2) 集客面から広報・交流普及担当と、より質の高い連携が必要である。</p>

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>・企画展毎に様々な試みは、来館者にとっても新鮮であった。今後とも継続して行ってほしい。また企画展を開催する際の開催意義を県民にしっかりと伝えることも重要である。</p>

活 動 評 価 表

機能・取組分野	調査・研究	学芸課・経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 ・講座参加者の満足度を高める。 	

I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 外部研究費取得件数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td colspan="2">平成 26 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>6</td> <td>3 (+4)</td> <td>6 件</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	4	6	3 (+4)	6 件
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	4	6	3 (+4)	6 件										
	○ [評価指標] 学会発表等件数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td colspan="2">平成 26 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>9 回</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>16 回</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	9 回	10	7	16 回
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	9 回	10	7	16 回										
	○ [評価指標] 論文等執筆件数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td colspan="2">平成 26 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>50 回</td> <td>60</td> <td>44</td> <td>80 回</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	50 回	60	44	80 回
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度										
実績	目標	実績	目標											
50 回	60	44	80 回											
(1) 外部研究費 (文部科学省科学研究費ほか) 継続 3 (東京大学 1 + 科研費 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・前嶋敏 (研究代表者) 「史資料原本調査をもとにした『越佐史料』巻七 (未刊) の再編成」 東京大学史料編纂所一般共同研究 ・大楽和正 (研究代表者) 「伝統野菜の創出と文化変容に関する民俗学的研究」 文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (B) ほか ・[評価指標：外部研究費取得件数] の平成 26 年度実績の括弧内は、共同研究者、研究協力者としての外部研究費取得件数 													
(2) 学会発表等 日本考古学協会、資源・素材学会ほか	<ul style="list-style-type: none"> ・西田泰民・宮尾亨「火炎土器の用途分析」日本文化財科学会 ・陳玲「遠藤武一小林存のアンギン論争について」新潟県民俗学会 													
(3) 論文等執筆	<ul style="list-style-type: none"> ・大楽和正「森林資源をめぐる共有と分配」『信濃』67-1 ・渡部浩二「〈鉾山絵巻〉が語る佐渡金山」『甦る鉾山都市の記憶 佐渡金山を世界遺産に』 ほか 													
分 析	<p>(1) 外部研究費は新規に 1 件を獲得できたが、25 年度並みで目標値に至っていない。</p> <p>(2) 学会発表等はやや目標値に至らない。</p>													
課 題	(1) 一般へより広く成果を還元する方法について検討が必要である。													

II 評価委員会による検証・評価

<p>取組に対する 全体的評価</p>	<p>評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留</p>
<p>評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 外部研究費取得自体が年々厳しさを増すところであるので、目標値に至らなかったものの新規獲得ができたことから、一定の評価ができる。 • 学会発表や論文執筆によって、研究そのものはもちろん、新規事業など拓けることも多くあると思われることや博物館自体のPRにも繋がっていくことから、発表の量や質の向上を図ってほしい。 • 県民の興味や関心を惹きつける視点での様々な分野での講座が開発され、満足度もある程度キープできているようではある。講座の新しい切り口やその見せ方を工夫しながら新規顧客開拓が望まれる。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	教育・普及 / 学校教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育に一層活用される博物館を目指す。 ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 ・館内及び館外活動の充実を図る。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関への施設利用の周知 ・体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。 	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ 県内小学校の来館率	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">平成 25 年度</th> <th colspan="2" style="width: 50%;">平成 26 年度</th> <th style="width: 25%;">平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">32%</td> <td style="text-align: center;">34%</td> <td style="text-align: center;">29%</td> <td style="text-align: center;">35%</td> </tr> </table>			平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	32%	34%	29%	35%
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	32%	34%	29%	35%												
	○ 体験活動の新プログラム導入件数	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">平成 25 年度</th> <th colspan="2" style="width: 50%;">平成 26 年度</th> <th style="width: 25%;">平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1 件以上</td> </tr> </table>			平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	3	1	1	1 件以上
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	3	1	1	1 件以上												
	○ 体験コーナーの参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">平成 25 年度</th> <th colspan="2" style="width: 50%;">平成 26 年度</th> <th style="width: 25%;">平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">90%</td> <td style="text-align: center;">90%以上</td> <td style="text-align: center;">99%</td> <td style="text-align: center;">90%以上</td> </tr> </table>			平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	90%	90%以上	99%	90%以上
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度												
実績	目標	実績	目標													
90%	90%以上	99%	90%以上													
(1) 県内小学校来館校数	142 校(延べ数)															
(2) 体験活動の新規プログラム	江戸時代で遊ぼう															
(3) 当館を会場とし、当館研究員を講師(指導者)とする教員を対象にした研修会	2 回実施															
(4) 出前授業の実施	26 回 1,639 人(まが玉づくり、火おこし体験など)															
(5) 教育機関への施設利用の周知活動	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会の教育施策説明会…上中下越佐渡の小中・特別支援学校校長 ・新潟市の園長・学校長研修会……保育・幼稚園から高校の園長・校長 ・県及び新潟市の P T A 連合会研究大会… P T A 役員等 ・各地区教員研修会…校長・教頭・研究主任・社会科主任等 ・学校訪問の重点化…常設展・企画展に関する広報活動 															
分 析	(1) 例年と比べ、全体的に小学校来館数が伸び悩んだ。その背景には、児童数・学校数の減少、消費税率の引上げで特に校外学習に利用するバス運賃等の教材費が値上がりしたこと、中～高学年の学級担任が社会科を含む各教科の授業時数確保との兼ね合いで校外学習を削減する傾向が見られること、整備が進み学校に近い地域(市町村)の資料館や文化財センターへ校外学習先の変更する動きがあることなど、多様な要因や学校事情が背景に存在している。															
	(2) 引き続き、体験コーナー参加者の満足度は高い状況にある。															
	(3) 当館に来館したことがある教職員からは、展示や解説、体験活動を高く評価していただいている。反面、20～30 代で、当館に来館したことがない教職員が存在し、校外学習に関する指導経験が少ない傾向がある。															

課 題	(1) 幅広い教員層に対する広報活動の重点化、教員研修の実施 (2) 体験活動の新プログラム開発・内容の充実 (3) 事前事後学習に役立つ教材や学習機会の準備
-----	---

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内小学校の来館率が 29%、来館校 142 校という数値は、目標の来館率 34%に及ばないものの、経年比較からは現状維持の数値である。しかし、体験コーナーの参加者満足度が 99%と大変高く、また出前授業も 26 回実施し、学校教育に活用される博物館となっている。学校数の減少や交通費等の問題から、県内だけでなく来県した外国の小中学生等の来館も促したい。出前授業もより積極的に取り組んでほしい。 ・ 教育機関への施設利用の周知やポスター等での広報活動を引き続き実施するとともに、まだ来館したことのない教職員に対する周知として、県立教育センターや長岡市教育センターと連携し、研修会等で一層周知していく。

新潟県立歴史博物館 県内小学校来館数の推移

H27. 3. 31
交流普及担当

年度	来館校数	県内小学校数	比率
21	157	552	28.4
22	161	534	30.1
23	171	531	32.2
24	151	525	28.8
25	164	510	32.1
26	142	485	29.3

活 動 評 価 表

機能・取組分野	教育・普及 / 社会教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 ・ 館内・館外での活動の充実を図る。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育機関との連携に努める。 ・ 館内講座・出前講座を継続する。 ・ ボランティアの受入の推進。 	

I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ 出前講座の参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td colspan="2">平成 26 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>92%</td> <td>90%</td> <td>94%</td> <td>90%</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	92%	90%	94%	90%
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	92%	90%	94%	90%										
	○ 館員の講座・講演会の参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td colspan="2">平成 26 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>91%</td> <td>90%</td> <td>89%</td> <td>90%</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	91%	90%	89%	90%
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	91%	90%	89%	90%										
	○ ボランティアの活動延人数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td colspan="2">平成 26 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>88</td> <td>190</td> <td>368</td> <td>190</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	88	190	368	190
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度										
実績	目標	実績	目標											
88	190	368	190											
(3) 出前講座	県内 12 市町村から要請、15 回実施、参加者 404 名													
(4) 館内講座	40 講座を実施、参加者 1,746 名													
(3) ボランティア登録者	18 名 (中学生ボランティア 3 名、9 月からの登録者 3 名)													
(4) ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料整理、講座の受付、体験コーナーや学校団体の体験活動の補助 ・ 常設展示室「縄文人の世界」案内解説 (中学生ボランティア) 													
(5) ボランティア増加の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生ボランティアの設置 ・ 来館者に対する広報活動の重点化 													
分 析	<p>(1) 出前講座は市町村の要請に基づいて計画、実施している。市町村及び公民館等の担当者との連絡を密にし、より多くの県民の利用につながるよう取り組む。</p> <p>(2) 館内講座は、昨年度同様、定期的に行っている定番の講座に継続して参加している常連の聴講者が目立った。一方、企画展と連動した記念講演会とシリーズ講座も好評を博した。</p> <p>(3) ボランティア登録者は昨年までに比べ大幅に増加し、各活動へ熱心に参加していただいている。</p> <p>(4) 7～8 月に、3 名の中学生ボランティアによる常設展示の案内解説を実施した。学校及び地域との連携により、若年層の社会参加、館の事業として公共の場における情報発信を進めることができた。(当該中学校からも、貴重な経験をすることができたことの謝意が寄せられている。)</p>													
課 題	<p>(1) 出前講座：各地区の生涯学習担当者との連携強化、広報活動展開</p> <p>(2) 館内講座：固定客の維持、参加者の若年層への拡大</p> <p>(3) ボランティア：活動内容と組織の充実、活動に即した研修等の実施</p>													

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座 15 回、館内講座 40 講座、ボランティアの活動延べ人数の 368 人は、評価できる数値である。前年度に比べ、館内講座が 2 講座増加し、ボランティア数が 104 人から大幅に増加した点は高く評価できる。 ・ 7～8 月の中学生ボランティアの設置は、県内の観光地における中学生ボランティア同様に、キャリア教育の視点からも有意義な取組である。中学生ボランティアの体験発表会やボランティアによる後輩ボランティアの指導等で、ボランティアによる歴史博物館及び社会教育の振興を図りたい。 ・ 市町村関連及び公民館関連の利用だけでなく、企業経営者等に周知し、新潟県の良さをアピールする場として、利用の拡大を図りたい。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	連 携—学術面の連携
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 ・ 幅広い団体とのネットワークを強化する。
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 ・ 県内外の他館および団体と共催しての巡回展の実施に努める。

I 博物館による自己点検と評価				
取組実績	○ [評価指標] 地域史研究ネットワークの拡大			
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 28 年度
		実績	目標	実績
		22 団体	(各年目標なし)	22 団体
				目標
				25 団体
	○ [評価指標] 移動展示・展示協力			
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 28 年度
		実績	目標	実績
		継続	継続	継続
	(1) 地域史研究ネットワーク新規参加団体 なし ※新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月 1 回） ※研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年 1 回） (2) 新規 地域史ネットワーク参加団体対象研修（館内向け IPM 研修、情報管理システム説明会を公開） (3) 移動展 「復興祈念展」 1 回（3 月～、十日町市） (4) 展示協力 4 件（笹山遺跡保存整備検討委員会ほか） (5) 研究協力 14 件（大学・博物館・県内外市教委など） (6) 全国規模研究会への参画 被災文化財等救援委員会など (7) 高等教育機関講師派遣 15 件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学ほか）			
分 析	(1) 地域史ネットワーク参加団体向けの研修を行った。 (2) 移動展・展示協力・研究協力・高等教育機関講師派遣など、県内外との協力関係が引き続き維持できている。			
課 題	(1) 地域史ネットワーク参加団体向け研修を定期化していく。 (2) 本県の文化財救援体制整備について、県教育委員会と協議継続。			

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史系博物館の県内の拠点となるよう市町村博物館・資料館等とより連携を強化し、調査・研究の推進を進めて欲しい。 ・ 文化財レスキューの経験、地域史研究ネットワークとの研修をふまえ資料の保存活動を展開する拠点なることを期待する。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	連携 / 地域づくりに向けた連携	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。 ・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体との事業共催等による連携を模索する。 	

I 博物館による自己点検と評価				
	○ [評価指標] 共催事業等による連携団体数			
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 28 年度
取組実績		実績	目標	実績
		12	15	16
			目標	15
	<p>(1) 新潟県立歴史博物館友の会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友の会主催第 11 回マイ・コレクション・ワールドの開催（6～7月） ・新潟県中越大震災 10 周年記念「黒坂黒太郎コカリナ・コンサート」（10月） ・講演会「小金井良精と長岡」及び「会員の集い 2014」実施（9月） ・企画展関連講座と連携してドイツ風の友の会カフェを開催（11月） ・研修旅行 「矢瀬遺跡周辺を巡る」（4月）、「能登・真脇遺跡を巡る旅」（9月） ・きのご観察会（ながおか田中長嶺事績顕彰会との共催・9月） ・会報の発行回数を年 4 回に増やし、研究員の研究活動などを会員向けに発信。 <p>(2) 県内各種イベントでの体験ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関原楽市・縄文まつり（11月）でのまが玉作り体験（関原地区商工会主催） ・長岡まつり（8月）、メディアシップなつ祭り（8月）、米百俵まつり（10月）での江戸時代の遊び及び甲冑体験 <p>(3) 日本アニメ・マンガ専門学校（JAM）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学校生が描いた浮世絵に関するアニメ・マンガ作品を展示（7～9月） <p>(4) その他の関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火焰街道博学連携プロジェクト ・関原サイノカミ有志会 ・長岡市立中央図書館リレー講演会「災害史に学ぶ」 ・新潟県教育委員会「越後国域確定 1300 年事業」など <p>(5) リピーター割引の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設の半券を提示することで当館の企画展観覧料を 2 割引とし、連携を進めている。 			
分 析	<p>(1) 歴史博物館と共催文書を交わした 4 件を含め、共催事業数をカウント。</p> <p>(2) 友の会は会員数が増加。一般会員 43 名、賛助会員 15 団体の新規入会があった。新規事業として「きのご観察会」を実施。参加者からは大変好評を博し、歴史博物館周辺の里山に親しみ、会員相互の交流を深める機会となった。</p> <p>(3) 今年度から米百俵まつりに出店するなど、歴史体験を通じて地域のイベントに貢献。</p>			

	(4) 夏季企画展は、専門学校が深く関わることで充実した巡回展となった。
課 題	(1) 新規団体の開拓…これまでの協力団体からの拡大 (2) 地域づくりに向けた連携強化…近隣施設と連携した地元関原向けの周知活動の展開 (3) 連携団体との広報協力体制の整備…友の会会員による地域別の広報活動協力

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・連携団体数の実績16（目標比+1）となったことから、「やや評価できる」とした。今後も各種団体との連携強化に努めていただきたい。 ・里山型を生かした活動に注力することは良いが、「地元関原向けの周知活動」では、範囲が狭すぎて効果も限定的なものに終わる懸念がある。再検討が必要と思料する。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	情報発信／情報発信	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・当館の活動について、県民認知度を高める。 ・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。 ・IT やマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 ・県外客誘致のための広報に努める。 ・観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。 	

I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数												
	<table border="1"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>221/101/158</td> <td>210/62/150</td> <td>220/134/172</td> <td>216/65/156</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	221/101/158	210/62/150	220/134/172	216/65/156
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度									
	実績	目標	実績	目標									
	221/101/158	210/62/150	220/134/172	216/65/156									
	○ [評価指標] 館ホームページへのアクセス件数												
	<table border="1"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>86,658</td> <td>90,000</td> <td>104,968</td> <td>90,000</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	86,658	90,000	104,968	90,000
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度									
	実績	目標	実績	目標									
	86,658	90,000	104,968	90,000									
○ [評価指標] 観光団体による来客者数（クーポン利用団体のみ）													
<table border="1"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>269 人(13 件)</td> <td>400</td> <td>606 人(23 件)</td> <td>400</td> </tr> </table>	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	269 人(13 件)	400	606 人(23 件)	400	
平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度										
実績	目標	実績	目標										
269 人(13 件)	400	606 人(23 件)	400										
(1)報道掲載													
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・雑誌・テレビ等はいずれも目標値を達成できた。 ・雑誌は、県内各地域のタウン誌や広告媒体（フリーペーパー）の他、県外の雑誌にも掲載され、大幅に増加した。 													
(2)館ホームページ													
<ul style="list-style-type: none"> ・公式フェイスブックを開設し、頻繁に情報発信した。また、ツイッターについても、今年度から試行を開始した。 													
(3)観光団体と来客													
<ul style="list-style-type: none"> ・県内主要温泉施設訪問、春のデスティネーションキャンペーンへの情報発信、老人クラブ訪問等 ・福井県、石川県、富山県、群馬県のマスコミや観光業者等を訪問。 ・県観光振興課主催の台湾旅行エージェント商談会に参加し、館のPRを行った。 													
分析	<p>(1)プレゼントパブリシティ（企画展招待券を活用した『読者プレゼント』など）を推進した結果、県内外の雑誌等に掲載された。</p> <p>(2)春季企画展開催中と8月中にアクセス数が多かった。フェイスブックの訪問者数も増加している。</p> <p>(3)「親鸞となむの大地」展に県内外から団体客が多数来館したことにより、団体来客者数の実績が増加している。</p>												
課題	<p>(1)企画展の内容に当てはまる雑誌等に積極的に情報提供する。</p> <p>(2)ホームページのアクセスを増やすため、更に細かく情報提供する。</p>												

	(3)博物館を含めた周辺地域での観光の提案
--	-----------------------

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> ・報道掲載数やHPへのアクセス数ともに大幅に伸びている。また、フェイスブックやツイッター等による情報提供を開始し、頻繁に更新したことは大きく評価に値する。 ・県外や国外へ情報発信が県外客誘客に繋がっていく可能性が高いので、引き続き、情報発信していくことが望まれる。できれば多言語による一言発信など外国人誘客につながる取り組みも挑んでいただきたい。

活 動 評 価 表

機能・取組分野	管理運営	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・外部評価の実施 ・評価結果の的確な反映によるP D C Aサイクルの確立 	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ [全体収支比率]	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>5%</td> <td>7%</td> <td>11%</td> <td>8%</td> </tr> </table>			平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	5%	7%	11%	8%
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	5%	7%	11%	8%												
	○ [評価指標の達成率]	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 25 年度</th> <th colspan="2">平成 26 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>100 %</td> <td>68%</td> <td>100%</td> </tr> </table>			平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	50%	100 %	68%	100%
	平成 25 年度	平成 26 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	50%	100 %	68%	100%												
	(1) 博物館運営方針 (H24～H28)、及び年度初めに設定した「当面の課題」7項目に沿って活動全般を進めた。															
	(2) 現運営方針に基づくP D C Aサイクルを継続した。(2サイクル目) <ul style="list-style-type: none"> ・活動評価表の作成、及び経営会議での議論等による自己評価 ・外部評価委員による検証と評価 ・これらを踏まえた改善と進捗管理 															
(3) 月各1回の課内会議、運営会議、全体会議を連動させて進捗管理に努めた。																
(4) 施設管理について、不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施した。																
(5) 来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応(業務日報・アンケート・案内説明員研修等)を堅持し、防災訓練(年3回)等による深化を図った。																
分 析	(1) 目標の設定や共有を図る館運営の仕組みづくりを進めた。															
	(2) 全体収支比率が大幅な伸びとなった。観覧者数増に加えて、有料率が昨年度比 16.9 ポイント増加した。春季企画展「親鸞となむの大地」展の開催が大きな要因である。															
		平成 26 年度	平成 25 年度													
	観覧者数(a)	62,737 人	47,791 人	14,946 人増												
うち有料者数(b)	41,074 人	23,213 人	17,861 人増													
有料率(b/a)	65.5%	48.6%	16.9%増													
(3) 評価指標の達成率は昨年度の半数(50%)から今年度は3分の2以上(68%)へと大きく上昇した。特に、「連携」「情報発信」はすべてで目標に達しており、地道な活動の積み重ねが奏功しているものと考え。																
課 題	(1) P D C Aサイクルを定着させ有効に機能させる。															
	(2) 入館者数を増やすことによる観覧料収入の増加、経費の節減															
	(3) 計画的な設備・機器等の更新・補修の実施															

新潟県立歴史博物館評価委員会報告書

発行日 平成 27年8月18日

編集・発行 新潟県立歴史博物館評価委員会